

平成29年第2回 総合教育会議 会議録

- 1 日時 平成29年11月22日（水） 午後3時30分から午後4時15分まで
- 2 場所 碧南市役所4階 庁議室
- 3 出席者
 - (1) 碧南市長
 - (2) 教育委員会
委員 高橋世利子、委員 池田香代子、委員 伊藤正幸、委員 磯貝暢宏、
教育長 生田弘幸
 - (3) 事務局職員
総務部長 金沢宏治、教育部長 奥谷直人、経営企画課長 生田和重、経営企画課主
幹 石川素子、経営企画課課長補佐 中川 知之、経営企画課政策推進担当係長 鈴
木好美
- 4 傍聴者 0人
- 5 議題
 - (1) 英語教育について
 - (2) 意見交換

市長あいさつ

（市長）

本日はありがとうございます。平成29年度2回目の総合教育会議ということですが、この会議は教育委員と市長との会議で、碧南の教育を良くしようというものです。磯貝委員は今回初めての会議となりますが、遠慮なくご意見を言っていただければと思います。

最近の碧南市の現状についてお話しますと、人口が月50人程度ずつ増えています。現在の人口は72,500人くらいです。景気が良くなってきたため増えているのではないかと思います。その内訳は8割が外国人で、日本人は出生より亡くなる方の方が多いのですが、流入が多いためやはり増えています。全国的に、特に北陸地方などでは人口が減っていますが、この西三河地域は増えています。産業面は人口が増えてやりやすく、一方教育面では、急激な増減がないためやりやすいといった状況です。また、財政力指数は、国内の市町村の中で10番目くらいです。さらに最近ふるさと納税が年間6億円ほど入ってきます。こうした状況ですので、学校に対しての予算もある程度は確保できています。しかしながら、

全体のバランスもありますし、ある程度平準化して事業を実施してまいります。大事なところはきちんと押さえた上で順番に実施してまいります。スポーツ関係ではビーチコートが来年7月に完成します。トヨタ自動車も屋内外に世界一のコートを作っております。今のところ順調に進んでおりますので、今後もよりよい教育行政を推進してまいります。

議題（１）英語教育について

学校教育課長が資料に基づき説明した。

〈意見・質疑〉

（委員）

外国語といってもいろいろな言語があると思うのですが、なぜ英語教育なのですか。

（学校教育課長）

学習指導要領に、外国語（英語）と示されているためです。

（委員）

3ページに9月21日木曜日に新教材説明会が開催されたとありますが、碧南市の教員も参加されているのですか。

（学校教育課長）

こちらの研修に参加したかどうかは把握していませんが、県教育委員会の研修が夏休みを中心に開催され、市から数名が参加しております。また、その先生達がこの冬休みに講師となって研修を行います。

（委員）

今後、3・4年生、5・6年生の担任になった時にどうやって授業をしていくのかといったことを話し合う機会はあるのですか。

（学校教育課長）

今年の夏休みに、各小学校で教員が生徒となって、ALTも加わり、授業の進め方の研修を2回やっております。

英語担当者の会議でこういった研修をやりましょうということになり、今年度スタートしております。

(委員)

小中に関わらず、英語を主とした教員の採用は考えているのですか。

(学校教育課長)

人事異動の中で、バランスよく配置することは昨年度からやっております。今後もよりよいバランスになるよう努めます。

(委員)

英語の授業を強化するような人材を採用する予定はありますか。

(学校教育課長)

実際に授業となると英語担当だけというわけにはいかないので、核となる人を1名から2名置き、その人を中心に校内研修を行っていくことを考えています。最終的には誰でも高学年の担任になった時、英語の授業ができるという形を目指しています。

(委員)

同じようなことになりましたが、6ページに、5・6年生の残り15時間分については、担任が実施する、とありますが5・6年生は英語の先生が多くなるということですか。

(学校教育課長)

英語科の先生だけでは配置しきれません。夏の研修を見たところ、比較的若い先生は英語だけで行われている授業を多く受けており、慣れているという印象を受けましたので、そういった先生を中心にいろいろな先生が関わることになると思います。

(委員)

15時間増えるということで教員、子どもへの負担や他の教科への影響はないですか。

(学校教育課長)

移行期間中は、これまで行っていた総合の時間のうち15時間を使っていいということになりましたので、新たにコマ数を増やすということはありません。本格実施の32年度からの対応については、検討を続けていくこととなります。

(委員)

目的としては、グローバル化の中で、英語を話せる人間を増やそうということだと思っておりますが、ただ時間数を増やして無理矢理英語をやらせるだけでは効果が低いので、英語を話したいという動機付けがあるといいと思います。外国人とコミュニケーションをとりたい、あの先生としゃべりたいという動機付けを取り入れていってはどうかと思っております。

(学校教育課長)

現在ALTは5・6年生で35時間授業を行い、さらに余った時間は3・4年生で授業をしています。また、給食の時間に各クラスをまわり、子ども達と一緒に過ごしています。今後も子ども達にとって外国人がより身近になるような取り組みをしていけたらと思っております。

(委員)

私の会社にも3人ほどフィリピン人がいますので、そういった方達を活用していてもいいのではないかなと思います。意見としてお伝えします。

(学校教育課長)

指導する力を持った方ということで、学校教育課を通じて採用したいと考えています。

(委員)

英語科の教育実習生は増えているのですか。

(学校教育課長)

教科までは把握していません。

(委員)

先ほどの委員のお話にもありましたが、今後ALTの増員を望みます。

(市長)

学習指導要領が議論される過程で、今の形を反対する国会議員もいたと思います。英語の時間数を増やさなくても、必要にせまられればできるようになるという考え方かと思うのですが。

(委員)

国語力が落ちているというのがありますね。教科書も写真や絵が多く、見やすくなっていますが、文章を読む力が落ちてきています。これでは、国語力はおろか、英語力も伸びないですよ。

(市長)

国語力をまず鍛えるということが一番だと思います。日本人がここまで優秀になったのも思考能力や論理力が鍛えられているからであって、英語力だけを鍛えても十分な効果は出ないと思います。

(委員)

国語力という点で、図書館にいい本を入れて充実させていただきたいと思います。本を読む機会というものが減っているため、子どもから大人まで魅力ある図書館にさせていただきたいです。

議題（２）意見交換

(委員)

マニフェストはどの辺りまで実行できていて、できていない部分は任期中に実行していく予定なのかどうか教えてください。

(市長)

1期目、2期目とも全部実行していますが、国や県の関係事業は完了していないものもあります。マニフェストに掲げた以上は全部やるつもりで取り組んでいます。